

=市全体、各学校、子ども達、関係者の様子をお届け=

CS通信 4号

一名護市教育委員会 令和5年9月11日発行



CS推進スローガン (導入期)

学校・家庭・地域みんなが子どもたちの「せんせい」です

「何から始める？」地域連携

～名護市地域連携担当教員研修会～

第4号テーマ



名護市で初めてとなる市独自の地域連携担当教員研修会が地域の交流拠点施設である屋部地区センターで8月14日に開かれました。研修会では、各校の地域連携担当教員と各地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）が参加しコミュニティ・スクールを進めるにあたり、改めて地域連携の意義をはじめ、地域連携担当教員の役割や活動について理解を深め、引き続き地域等との連携・協働の充実に向けた取り組みを進めていくことが確認されました。

=会次第=

- 屋部支所長あいさつ
- 教育委員会あいさつ
- 行政説明(地域連携の意義と可能性、地域連携担当教員の役割)
- 実践事例発表(地域連携担当教員として取り組んだこと)
- グループ討議(地域連携担当教員としてできること)
- 全体振り返り

地域連携担当教員



地域コーディネーター
(地域学校協働活動推進員)



地域連携担当教員と地域コーディネーターが同じテーブルで協議

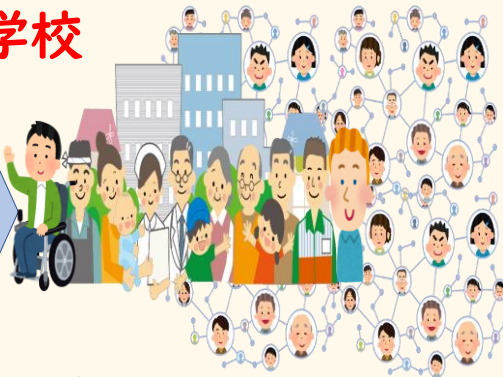
つながることでの広がり可能性

CSでつながる地域と学校



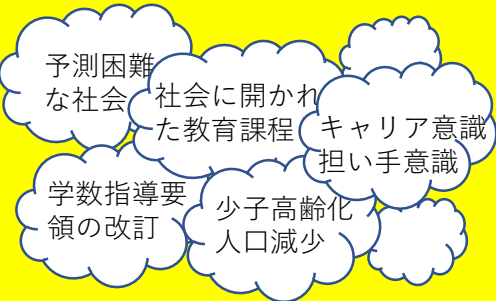
CSでつながる学校内

教職員
地域連携担当教員
CS委員
地域コーディネーター
・
・



CSでつながる地域と保護者

行政説明～地域連携の意義と可能性、地域連携担当教員の役割～



学校だけでは困難



- 地域連携
- 社会総がかり



国立教育政策研究所
NIER 社会教育実践研究センター
地域学校協働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携担当教員の育成研修ハンドブック

【地域連携担当教員の役割抜粋】

- 協働の推進
 - ・教職員への地域学校協働活動等の意義の周知
- 情報収集・整理・分析
 - ・教職員の地域との連携に関するニーズの収集・整理
 - ・校内の教育資源情報の収集
- 情報発信と情報セキュリティの推進
 - ・地域の教育資源情報（ヒト・モノ・コト）への教職員への提供
- 学習プログラムの充実に関する教職員への助言
 - ・地域の教育資源の活用等

実践事例発表～地域連携担当教員として取り組んだこと～

「CS先進校にふさわしくなさそうな担当の話」をサブタイトルに「こんな私でも地域連携担当しています」など本音でお話いただき参加者の気持ちも軽くなり、「まず自分ができることをやる」と前向きな意識につながりました。

年度当初の共通確認

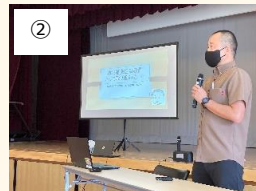
- ・全職員と関係者でCSの意義、緑風のCSを確認。
- ・関係団体と教職員の顔合わせ

CS生徒会の協働活動サポート

- ・児童生徒を各区に割振り行事へ参加。各区のボランティア活動。

- 活動を振り返り次回へ
- 一人でやらない。つなぐ
- できることをやる

↓↓
CS担当は誰でもできる



- ①行政説明を行う、市教委学校教育課の島袋専門指導員。
- ②実践事例発表を行う、緑風学園の木下教諭。
- ③屋部地区センターの取組みや子ども達の様子を話す、屋部支所の仲里支所長。

グループ討議～地域連携担当として校内でできること～

【ワーク流れ】

現状の共有(取組み、課題)
↓↓
気づきの共有(アイデア)
↓↓
アクション(何からは始める)



グループ討議の様子

地域連携の意識、校内でできることの具現化、中校区連携の意識へとつながりました。
会終了後も参加者同士の情報交換が続きました。



会終了後の情報交換の様子

参加者の声

- CS（学校運営協議会）で話し合われたことを職員に知ってもらえるよう職員間で共有を頑張る。
- 地域コーディネーターや中校区の地域連携担当教員の話し合いの機会を設けたい。
- 職員にもっと地域とのつながりの必要性・大切さなどを伝えていきたい。
- 無理なく、負担なく、地域教育資源を活用できる実践を積み重ねていく。
- 中学校区での取組み状況や課題等を聞くことで、自分たちのCSの取組みを充実させていく方向性が少し見えてきた。



CS通信ってなに？

1. 名護市全体でのCS推進の取組み発信
2. 各学校でのCSの取組み発信
3. 地域と連携した授業の様子を共有
4. 子ども達の地域に根差した活動を発信

